

『子ども信仰問答』で学ぶ



はじめてのキリスト教 ④

問： あなたは、何によって神さまを愛し、神さまの教えを守ることを学ぶことができますか。

答： 聖書によってです。

『聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。』（新約聖書テモテへの手紙第二 3 章 16 節）

●一般啓示

神さまは、全てのものを無からつくられた方です。その創造のみわざの素晴らしさは、身近な自然の秩序を見れば明らかです。また、神さまが全てのものをつくられたのであれば、私たち人間をつくられたのもまた神さまです。その私たちの心には善悪を図る良心があります。これらはいづれも神さまの創造のみわざで、神さまの存在を証しするものであり、全ての人に普遍的に啓示されています。これを『一般啓示』と言います。

しかし、この『一般啓示』だけでは、神さまを正しく愛し、神さまの教えを正しく守ることはできません。

●特別啓示としての聖書

全てのものをつくられた神さまから神ご自身とその愛と教えを知らせてくださらなければ、私たちは正しく神さまを知ることはできず、神さまを愛しその教えを守ることはできません。しかし、神さまは私たちにご自身を知らせてくださいました。これを『特別啓示』と言っています。

多くの宗教は、この『特別啓示』は教祖にしか示されません。ですから客観性がなく、どこまで信頼してよいか判りません。ところが、神さまがご自身を知らせてくださった『聖書』は、イスラエルの父祖アブラハムからイエス・キリストの使徒達の時代まで 1,500 年以上にわたり多くの預言者に啓示され、その愛と教えは首尾一貫しています。これほど客観性のある啓示は他にありません。

●聖書は信仰と生活との唯一絶対の規範である。

このように、『聖書』は神さまがご自身を知らせた特別な啓示ですから、私たちの信仰と生活を聖書の教えに照らして判断し、必要があれば修正しなければなりません。なぜなら、聖書はすべてのものを創造された神さまのみことばであり、唯一絶対の規範です。同時に、聖書の上に、あるいは聖書と並ぶ権威を認めません。